



KY20394(00/03)



取扱説明書

四輪歩行車 KW40



● 目次 ●

安全に関するご注意	1
1. 製品の特徴・使用目的	4
2. 同梱部品の確認	4
3. 各部名称	5
4. お使いになる前に	6
5. 各部の使用法	9
6. お手入れの方法	10
7. 保管についてお願い	11
8. 歩行車の保守・点検	11
9. 仕様	12
10. 製品記録	13
保証規定	15

このたびはカワムラサイクルの歩行車をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書は、製品を安全にご使用していただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます。

<https://www.kawamura-cycle.co.jp>

※ご使用になる前に本書を必ずお読みください。また、ご使用の際には本書を必ず携帯していただき
必要なときにいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書は本書裏表紙に記載されていますので、お買い上げいただいた販売店より記入をお受け下さい。

カワムラサイクル

安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[表示マークの説明]

※正しい取扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

 警告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
 禁止	してはいけないことを示しています。
 必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

※ 以下の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

警告

禁止

- エスカレーターでは使用しないでください。
介助者がいる場合でも、転倒などにより重大な事故のおそれがあります。
- この製品は、歩行車です。それ以外の用途には使用しないでください。
- 屋外に放置すると、サビなどにより製品が劣化します。保管は屋内でおこなってください。
- 倒れ掛かるような急激な座り方はしないでください。また、座面部以外に座らないでください。
転倒または壊れてケガをする恐れがあります。
- 歩行車に座った状態で前方の地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢をとらないでください。歩行車が転倒し危険です。
- 歩行車を火気に近づけないでください。
シート部が燃えたり、プラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど危険です。
熱湯消毒についても同様です。
- 勝手に改造・分解しないでください。
強度や耐久性が劣化して危険です。また、事故の原因になりますので、絶対に改造・分解しないでください。本来の装着品を外してのご利用も改造の対象となります。



警告



禁止

- 複数の人数で使用しないでください。
この歩行車は、一人用です。二人以上で乗ると破損・事故の原因となります。
- 歩行車に座る際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて歩行車が固定されていることを確認してください。
- ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。
ブレーキが変形・破損する恐れがあります。
- 歩行車を投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。
- 傾斜地での走行は、歩行車が予想外の方向に進むなど、大変危険です。
- 段差の前では一旦停止して前輪を持ち上げて乗り越えてください。
決して勢いをつけて乗り越えないでください。
大変危険です。また、フレーム及び車輪等の損傷を受けます。
- 大きな段差のある場所・階段では使用しないでください。
- 坂道や傾斜のあるところで駐車ならびに座らないでください。
安定性が悪くなり、転倒の恐れがあり大変危険です。絶対にしないでください。
傾斜地では駐車ブレーキをかけても歩行車が動く場合があります、大変危険です。
滑りやすい床面では駐車ブレーキをかけても歩行車が動く場合があります。
- 雨ざらしにしたり、雨の日のご使用、ぬかるみ、水たまり等のある場所でのご使用はお避けください。
車輪のサビ等により故障の原因になります。
- 踏み切りを横断の際は、前輪をレールに対して直角にして通行してください。
斜めの角度で進入するとレールの溝に車輪がはまって危険です。必ず介添人と一緒にわたってください。
- 可動部に指や手を挟まないようにしてください。ケガの原因となります。
- 小さなお子様には使用させたり、遊ばせたりしないでください。



必ず守る

- 道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。

⚠ 注意



禁止

- この製品は車いすではありません。人を乗せたまま移動しないでください。
 - 走行する際には片手で操作しないでください。
傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。
 - シートには立たないでください。転倒の恐れがあります。
 - バッグには、5kg以上の荷物は入れないでください。
 - 下記のようなところに歩行車や部品を放置しないでください。
 - ・車道に近いところ
 - ・路面に段差や凸凹のあるところ
 - ・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
 - ・ほこりの多い場所
 - ・非常口、消火器、消火栓の前
 - ・直射日光の当たる場所(車内も含む)
 - ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
 - ・子供がいたずらをする恐れのある場所
 - ・人通りのあるところ
 - ・湿気の多いところ
 - ・雨風の当たるところ
 - ・坂道
 - ・暑い日や寒い日の戸外
- 事故やサビ・破損の原因になります。



必ず守る

- 押手高さ調整ピンは、確実にロックされているか確認してください。
- 手押しハンドルグリップは、必ず左右同じ高さにしてください。
- ブレーキは必ず手で操作してください。
- 回転している前輪・後輪に指等を差し込まないように注意してください。
- 次のような場所・状況でのご使用は危険です。使用を避けるか、介添人に同行してもらってください。
 - ・エスカレータ
 - ・階段
 - ・坂道
 - ・ぬかるみ
 - ・交通量の多い道路
 - ・踏み切り
 - ・防止柵のない側溝や路肩付近など
 - ・凹凸の激しい道
 - ・夜間、雨や雪、風の強い日
 - ・凍結路
 - ・深い砂利道や砂道
 - ・その他危険が予想される場所
- 夜間、雨降りは通行者や車から発見しにくくなります。充分にご注意ください。
- 発進するときや段差を乗り越えるときには、車輪が真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
斜めに進入したり、車輪が斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、車輪の破損や車輪からタイヤが外れる原因になったり、事故の原因となる恐れがあり大変危険です。
- 認知症の方がご使用される場合は、必ず介添人が付き添ってください。
また、歩行車の部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。

なお、この取扱説明書は、イラストが一部実車と異なる場合があります。

1.製品の特徴・使用目的

本製品は、自立歩行が可能な方の歩行機能を補う歩行車です。

- 押手高さを調整できます。
- 取付け・取外し自由のバッグがついています。
- 疲れたときには、シートに座って休むことができます。

2.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

- ・ 取扱説明書
- ・ 4mm 六角レンチ
- ・ バッグ
- ・ ステッキボウル（バッグの中に入っています）

3.各部名称



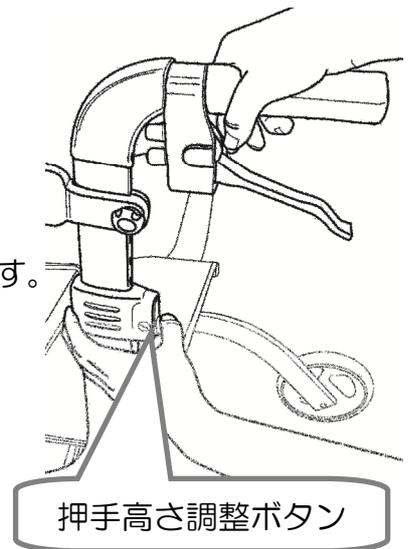
- | | |
|---------------|--------------------------------------|
| ①背ベルト | 座面に腰掛ける際の背もたれです。 |
| ②ブレーキワイヤー | ブレーキを操作するためのワイヤーです。 |
| ③シート | 腰掛けるときに使います。 |
| ④前輪 | 自在に方向転換できる小車輪です。 |
| ⑤バッグ | 荷物などを入れられます。ただし、5kg 以上のものは入れないでください。 |
| ⑥後輪 | 主輪です。 |
| ⑦押し高さ調整ボタン | 押しの高さ調節するボタンです。 |
| ⑧手押しハンドルグリップ | 歩行の際に握っていただく場所です。 |
| ⑨ループブレーキレバー | 駐車や減速する際にご使用ください。 |
| ⑩ステッキホルダー | 杖を固定するための面ファスナー式のベルトです。 |
| ⑪ステッキボウル | 杖先を収める場所です。 |
| ⑫折りたたみベルト | 引っ張る事で歩行車を折りたたむことができます。 |
| ⑬背ベルト高さ調整ノブネジ | 背ベルトの高さを調整するノブネジです。 |

4.お使いになる前に

組立ておよび調節

① 押手の高さ調節

- 押手高さ調整ボタンを押しながら押手を上下にずらして高さを決めます。
- 押手高さ調整ボタンが戻って押手が動かないことを確認します。



注意

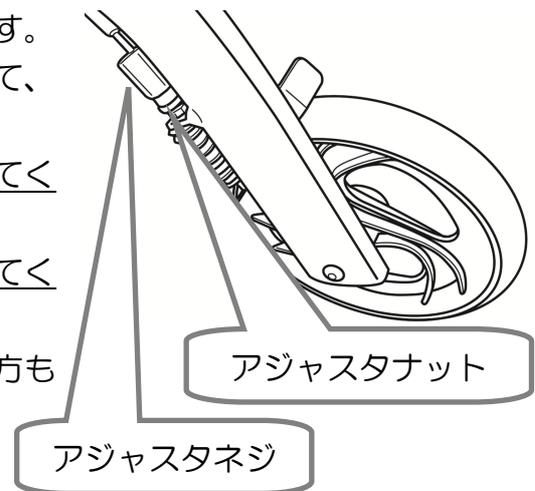
- 押手は必ず左右同じ高さにしてください。
- 押手高さ調整を行った後は、ブレーキの利きを確認し、制動力が弱い場合はブレーキワイヤーの調整を行ってください。

POINT

手押しハンドルグリップ高さは、歩行車の後ろに立ち、グリップを軽く握ったときに肘が少し曲がるくらいの位置を目安にします。

② ブレーキワイヤー調節

- アジャスタナットを付属工具（スパナ）で緩めます。
- アジャスタネジのオレンジ色のつまみを下へ押し、手で回して調整します。
ブレーキを強める場合は、左回りにつまみを回してください。
ブレーキを弱める場合は、右回りにつまみを回してください。
- 左右のブレーキの利きが同じになるようにもう一方も同じ作業を行い調節して下さい。



③ 背ベルトの高さ調節

- 背ベルト高さ調整ノブネジを緩めて高さを調節して下さい。
- 調節後ノブネジをしっかり締めてください。
- 背ベルトの高さが水平になるようもう一方も同じ作業を行い調節して下さい。



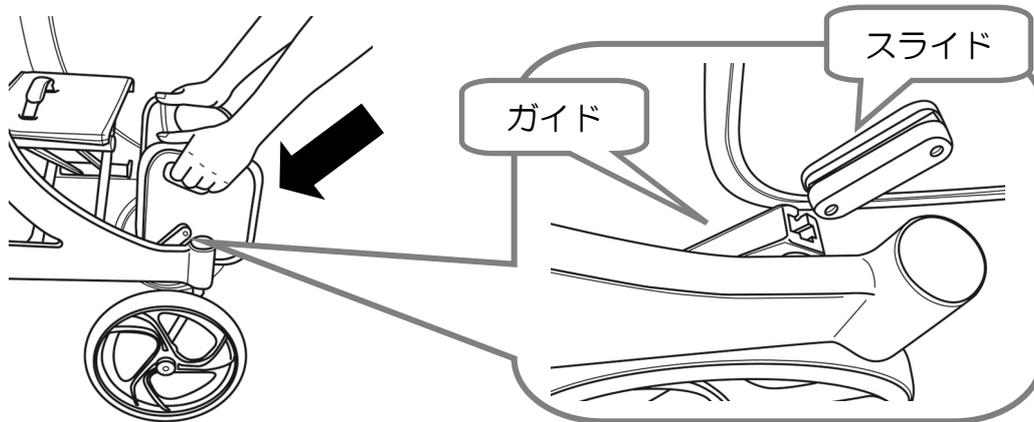
警告

必ず背ベルトを取付けた状態で、ご使用ください。
転倒やけがの原因となります。

④ バッグの取り付け方

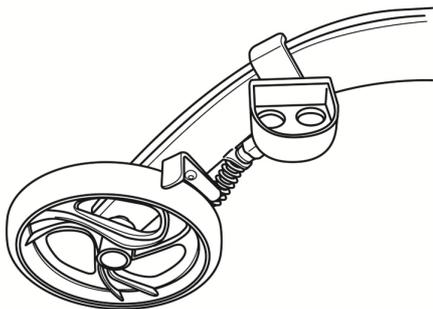
- バッグ側面の金属製のスライドを本体前部のガイドに差し込みます。
- バッグのファスナーのリングが前に来るように取り付けてください。

※バッグには、5kg以上の荷物は入れないでください。



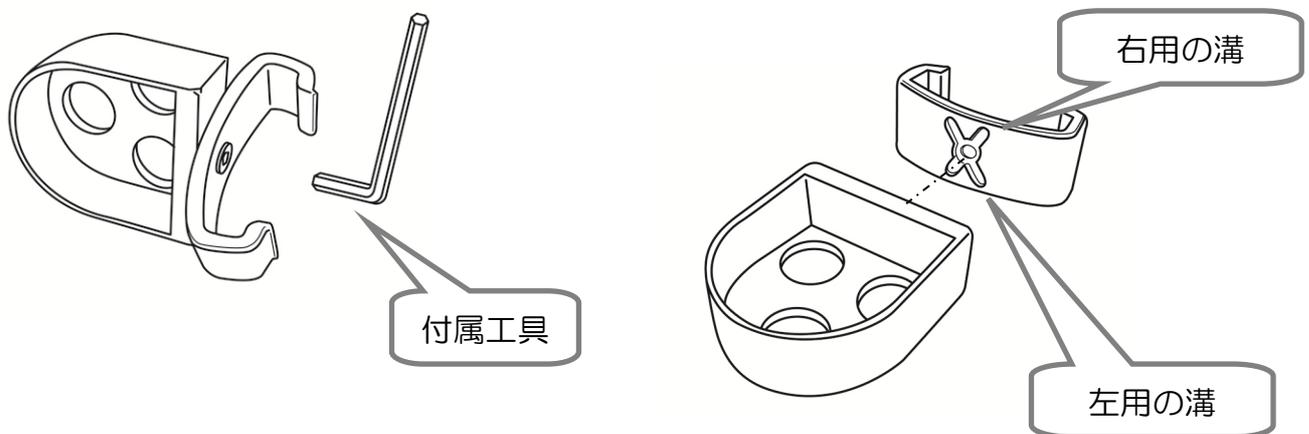
⑤ ステッキボウルの取り付け方※出荷時はステッキボウルがバッグの中に入っております。

- 下図のようにフレームにC型部品をはめ込みます。
この時、ワイヤーがはさまっていない事を確認して取付けを行ってください。



⑥ ステッキボウルの左側への取り付け方

- ステッキボウルのネジを付属の工具で緩めます。
- ステッキボウルをC型部品の左用の溝にはめ、ネジを付属の工具でしっかり締めます。



歩行車を使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。
長期間使用を続けると、劣化が生じます。

<装着品の確認>

- 背ベルトはしっかりと固定されていますか？
- バッグはしっかりと取り付けられていますか？

<押手の確認>

- 押手高さ調整ボタンはしっかりと固定されていますか？
- 手押しハンドルグリップの高さは左右同じですか？

<ブレーキの確認>

- ブレーキが正しく作動しますか？
- 制動ブレーキをかけた状態で主輪が回転しませんか？
- 駐車ブレーキをかけた状態で主輪が回転しませんか？

<前輪及び後輪>

- しっかりと固定されていますか？
- スムーズに回転しますか？

<全体的に>

- ガタつきはありませんか？
- まっすぐに走りますか？
- 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- ワイヤーが部品等に引っかかかっていませんか？

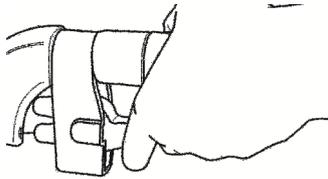
万が一、ケガや事故が起きた際には早急に販売店へご連絡ください

消費生活用製品安全法の改正により、生活に使う製品で重大事故が起きた場合、メーカーや輸入業者は経産省への報告を義務付ける事になりました。

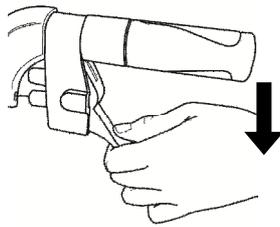
これは重大事故が他にも起きないように被害を拡大させないための措置ですので、早急なご連絡をお願いします。

5.各部の使用方法

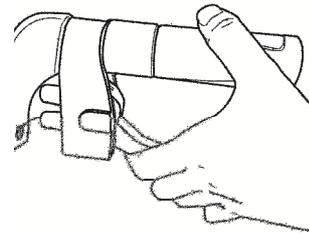
①ブレーキのかけ方



[制動ブレーキ]



[駐車ブレーキ]



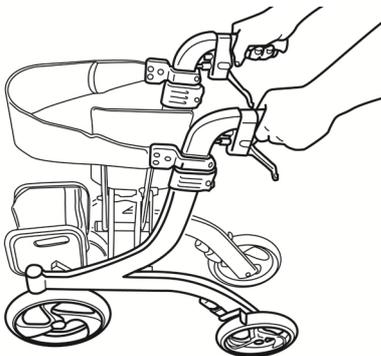
[ブレーキ解除]

- ブレーキレバーを引き上げると制御ブレーキがききます。
- 指を離すとレバーは元に戻ります。
- また、手で下に押し下げると駐車ブレーキがかかり主輪が固定されます。ブレーキをかけたとき左右の後輪がしっかりと止まっていれば正常です。
- ブレーキを解除する場合はブレーキレバーを軽く押し上げてください。

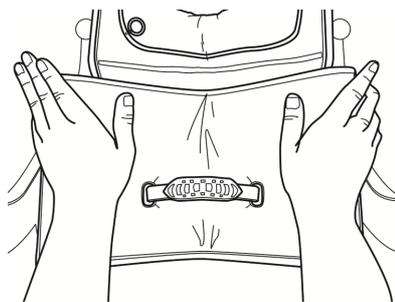
⚠ 注意

- 必ず両手でハンドルを握って身体を支えてください。
- 必ずブレーキがロックされていることを確認してから立ち上がりまたは座って下さい。
- 坂道や傾斜のあるところで駐車しないでください。
転倒の恐れがあり大変危険です。絶対にしないでください。
- ブレーキレバーの回転軸付近に指を近づけないでください。
指をはさむ恐れがあります。

②拡げ方



駐車ブレーキをかけます。
歩行車の前方または後方に立ち、左右の押手を持って両側に軽く拡げます。



片方のフレームを持ち上げて車輪を少し地面から浮かせ、シートパイプ部分を上から手で押し下げます。

⚠ 注意

- シートパイプの横や下に手や指を置かないでください。
挟まってケガをする恐れがあります。



シートパイプ

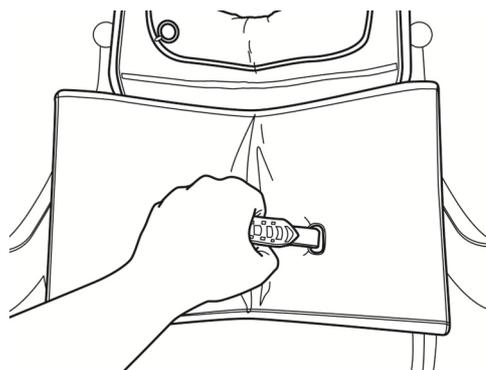
- シートパイプ受けにシートパイプが乗っている事を確認してください

③折りたたみ方

- ・折りたたみベルトを上方向に引っ張ります。

注意

シートを持って折りたたまないように注意して下さい。折りたたみベルトを使用せずに折りたたむことはできません。フレームやネジなどの変形の原因となります。



6.お手入れの方法

■金属部分（フレーム）

凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびりついた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。ご使用後は必ず乾燥させてください。

■樹脂（プラスチック）部

樹脂部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

■シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。

市販されている防水加工用のスプレーなどを用いての防水加工をお勧めします。防水加工を行う場合は、ご使用になる防水加工用商品の説明書をよくお読みください。

<汚れがひどいとき>

- 汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後、水で濡らした布で洗剤を拭き取ってください。
- しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- 洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。

注意

- 熱湯やオゾン、水、スチームで洗淨しないでください。

故障・変質・変色の原因となります。

- 中性洗剤以外を使用しないでください。

中性洗剤以外を使用した場合変質・変色・傷みの原因となります。

- シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。

変質・変色・傷みの原因となります。

- たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。

傷みの原因となります。

7.保管についてのお願い

歩行車は安全な場所に保管してください。

注意

●下記のようなところに歩行車や部品を放置しないでください。

- 車道に近いところ
 - 路面に段差や凸凹のあるところ
 - 海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
 - ほこりの多い場所
 - 非常口、消火器、消火栓の前
 - 直射日光の当たる場所(車内も含む)
 - ストープなど火気を使用し高温になる場所
 - 子供がいたずらをする恐れのある場所
 - 人通りのあるところ
 - 湿気の多いところ
 - 雨風の当たるところ
 - 坂道
 - 暑い日や寒い日の戸外
- 事故やサビ・破損の原因になります。

8.歩行車の保守・点検

この製品を安全にお使いいただくためには、日ごろのお手入れと点検整備が必要です。

■ネジの緩みはありませんか？

ネジ、ノブ類の緩みがないことを確認してください。ネジが緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。締めてもすぐ緩む、締まらないなどの不具合があれば、直ちにご使用をお止め頂き、お買い上げの販売店までご連絡ください。

■汚れていませんか？

ホコリや泥などで汚れたときはそのままにしておかず、早めに濡れ雑巾等でふき取ってください。汚れのひどいときは中性洗剤をお使いください。

■ブレーキはしっかり効きますか？

ご使用前には必ずブレーキの効き具合を確認し、効きが悪いときにはご使用をお止めいただき、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

■変な音がしませんか？

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかを確認してください。車輪のベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。原因が不明な場合、修理可能な場合はお買い上げの販売店までご連絡ください。

■四点接地していますか？

前輪二輪と後輪二輪が接地しているかご確認ください。四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。

■背ベルトは固定されていますか？

ご使用前には必ず背ベルトがしっかりと固定されているかを確認してください。

■消耗部品の交換は必要ですか？

タイヤなど消耗部品の磨耗がないか確認し、磨耗が激しい場合には交換してください。

■ブレーキワイヤーは切れていませんか？

不意にブレーキが効かなくなったり転倒するなど大変危険です。安全のためにワイヤーは1年に1度交換してください。

■洗淨の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。
洗淨後は、乾燥させてください。カビやサビの原因になります。

⚠ 警告

- スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
- 異常が見つかったら、直ちに使用を中止しお買い上げ頂いた販売店へご相談ください。
- 保証期間後であっても修理によって製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有償修理をさせていただきますので、お買い上げ頂いた販売店へご相談ください。

9.仕 様

〈各部寸法〉……………記載の寸法や状態は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

品名・名称	標準仕様・規格
	KW40
材質（本体）	アルミ製
（座面）	ポリエステル製
全幅 (mm)	505
ハンドル高さ (mm)	790~890 (5段階)
グリップ（内幅） (mm)	370
座幅 (mm)	370
奥行き (mm)	700 (バッグ取付時)
座面高さ (mm)	450
前輪	10インチ ロープロ カンチレバー
後輪	8インチ ロープロ
ブレーキ	ループブレーキレバー
重量 (kg)	7.7

地球の環境保護のため、廃棄するときはそのまま放置しないで
各自治体の取り決めにしたがってください。

10.製品記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、製造番号を記録しておいてください。
車体番号は右フレームに貼り付けられています。

車 種	
製 造 月	年 月

<シール貼付位置>



カワムラサイクル

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町 1-3-11	TEL0568-52-4800
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡県福岡市西区生の松原 1-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場 ■神戸第二工場 ■いなみの工場

本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に一部予告なく変更することがあります。
修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い上げ頂いた販売店へお申し付けください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、製品名・車種をご確認のうえ上記までご相談ください。

保証規定

弊社の定める保証とは、保証期間内に正常な使用状態において故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で、お買い上げ日より1年以内に故障した場合は無償修理または交換いたします。(下記記載の消耗部品は含みません。)
 2. 無償保証期間内に故障して修理を受ける場合は、お買い上げ頂いた販売店へご連絡ください。
 3. 無償保証期間内でも次の場合には保証適用除外となります。
 - イ) ご使用による消耗および取扱不注意による破損
例) タイヤの磨耗およびパンク、ワイヤー、シート、ステップ板の破損等
 - ロ) 地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
 - ハ) お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
 - ニ) 保全上の不備および弊社以外で行った修理や改造等による破損
 - ホ) 弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
 - ヘ) 一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
 - ト) 製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
 - チ) 日本国外でご使用の場合
 - リ) 保証書の提示がない場合
- 消耗部品
- ・車輪
 - ・シート類
 - ・ワイヤー
4. 保証書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
 5. 補修用性能部品は、製造打ち切り後5年保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
 6. 保証書にご記入頂いた個人情報、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検の為に記載内容を利用して頂く場合がございますので、ご了承ください。

保証書	
品番 KW40	販売店名
お客様名	住所 〒
ご住所 〒	TEL
TEL () -	お買い上げ年月日 年 月 日 (保証期間上記より1年間)
	製造販売元 株式会社カワムラサイクル 〒651-2411 兵庫県神戸市西区上新地3-9-1 TEL078-969-2800

一度使用された製品は、原則としてお取替えできません。
お問い合わせは、お買い上げいただいた販売店へお申し付けください。

KW40

2018年12月版